

ゴールドバレル

登録番号：(出願番号第20095号)	和 喜納兼二 岩本由美 新崎
登録年月日：(出願公表平成18年11月17日)	正雄 上地邦彦
登録者：沖縄県(沖縄県那覇市泉崎一丁目2番2号)	来 歴：「クリームバイン」と「McGregor ST-1」の交雑実生
育成者：出花幸之介 池宮秀和 金城鉄男 高原利雄 正田守幸 粟国佳史 當間ひろの 大城和久 添盛 浩 仲宗根福則 比嘉正	育成地：沖縄県名護市(沖縄県農業研究センター名護支所〔バインアップル育種指定試験地〕)

特 性

■栽培特性

草本の大きさは中程度で、草姿は中間性である。葉はやや軟らかく、葉は緑色である。葉の縁はパイプ状になり、とげは全くない。沖縄本島北部地域における自然夏実(12月の自然条件下で花芽分化し夏季に収穫されるもの)の収穫時期は、7月中旬である。出蕾後から125日間で収穫適期になり、「N67-10」より20日ほど早く収穫できる早生品種である。栄養芽の発生は、えい芽が0.9本、吸芽は0.5本といずれも少ない。

■果実特性

自然夏実での果実の大きさは1410gで、同じ早生品種である「ボゴール」、「ソフトタッチ」にくらべ2倍近く、「N67-10」とほぼ同程度の大きさである。果実は円筒形で冠芽も小さく、外観のバランスがよい。登熟期の果皮は黄橙色で、小果の突出程度は平である。果肉は鮮やかな黄色で、果肉内の空洞は少なく、果汁量は多い。糖度は16.5%で、酸度は0.53%と既存品種にくらべ低い。糖酸比が高く、肉質も軟らかいため、食味は優れている。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

草本が罹病する萎凋病の発生は「N67-10」に比べ少ない。適期に植え付けると芯腐病の発生もない。果実病害である黒目病の発生は「N67-10」と同等で中程度である。花樟病はほとんど発生しない。裂果(果実表面の亀裂)の発生は「N67-10」と同等で、慣行栽培では問題にならない。

「ゴールドバレル」は吸芽の発生数が少ないため、1回目の収穫後に更新する3年1収穫の栽培体系が基本となる。えい芽の発生も少ないため、更新時には母茎の輪切り増殖などを行い種苗を確保する必要がある。増殖苗による栽培が主となるため、ビニルマルチ栽培により生育促進することが望ましい。育成地での収穫適期は、5月下旬から8月上旬である。10月から4月までの果実品質は、酸度が高く、食味が低下する。特に、12月から3月には、低温による生理障害である褐斑症の発生がみられるため、出荷を控える。鉄や亜鉛などの微量要素の欠乏症が発生しやすい傾向にあるため、葉の黄化がみられる場合には適宜薬剤を散布する。多冠芽(冠芽が2本以上発生)が多いので、開花終了後に不要な冠芽を切除し、外観向上を図る。

「ゴールドバレル」は3年1収穫の作型であるため、他品種にくらべ更新回数が多くなるうえに、種苗増殖にコストがかかる。これらの栽培コストを吸収するため、高品質栽培技術や差別化販売による収益性の向上を目指す必要がある。

■地域適応性

現在バインアップルを栽培している沖縄本島北部地域や石垣島、西表島などの八重山地域の酸性土壌地域に適する。ビニルハウスでの栽培は、露地にくらべ早い時期に大玉で高品質な果実が収穫可能となるため、施設栽培にも適する。
(竹内誠人)